

# 職場のがん対策、経営課題に

## がん社会 を診る

中川 恵一

なお、岩崎彌太郎は50歳の若さで胃がんで亡くなりました。最期は激しい痛みに苦しんだという記録が残っています。

東大病院の近くには、旧岩崎邸庭園や三菱史料館など三菱関連の施設がたくさんあります。旧岩崎邸庭園は岩崎彌太郎の長男で、第3代社長の岩崎久彌の旧邸宅です。国指定の重要文化財で、ジョサイア・コンドル設計の洋館や大河喜十郎が手がけた和館が残

っており、私も気分転換に散歩することがあります。

さて三菱金曜会での講演内容をまとめてみます。この連載で伝えてきたことの要点を1時間で話したので、読者にとってもよい復習になると思います。

日本は、男性の3人に2人、女性でも2人に1人が生涯にがんを罹患（りかん）する世界有数の「がん大国」です。

がんは細胞の老化といつてよい病気ですから、超高齢社会のわが国にがんが多いのは当然です。ただし女性では老化以外の発がん要因があるため、55歳までは男性より女性にがんが多くみられます。

女性が働き、定年が延長すれば、働くがん患者が増えることとなります。「がん社会」の到来です。実際、現役社員

の死亡原因のおよそ半分が、がんによるものです。

しかし会社でのがん対策は遅れたままといえます。多くの女性が家庭にとどまり、定年が55歳前後だったかつての会社の姿を引きずっているかのようです。

がんへの備えの基本は、予防と早期発見。がんは症状を出しにくい病気ですから、絶対調でも定期的な検査を受ける「がん検診」が重要です。ところが職場でのがん検診は福利厚生事業として行われ、課題も山積しています。

国も職場でのがん対策を進める国家プロジェクト「企業推進アクション」を15年にわたって継続しています。ここでの調査でも、経営者のがんに関する関心や理解が、会社のがん対策を左右することが分かっています。

学校でのがん教育が始まっている今、職場でのがん教育も大切になっています。

「がん対策は経営課題」という言葉で今回の講演を終えました。

（東京大学特任教授）

7月14日に「三菱金曜会」で講演をしました。場所は東京都千代田区の三菱商事ビルにある特別会議室。2010年5月以来14年ぶり、2回目の登壇です。

三菱金曜会は三菱グループを代表する各社の会長、社長を会員とする親睦会です。所属企業約4500社、従業員数約87万人を擁するグループの歴史は明治維新後、創業者の岩崎彌太郎がたった数隻の船で始めた海運業からスタートしました。

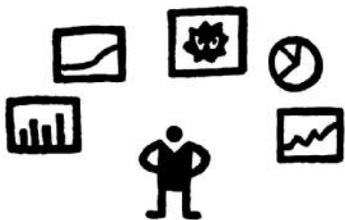


イラスト 中村 久美